

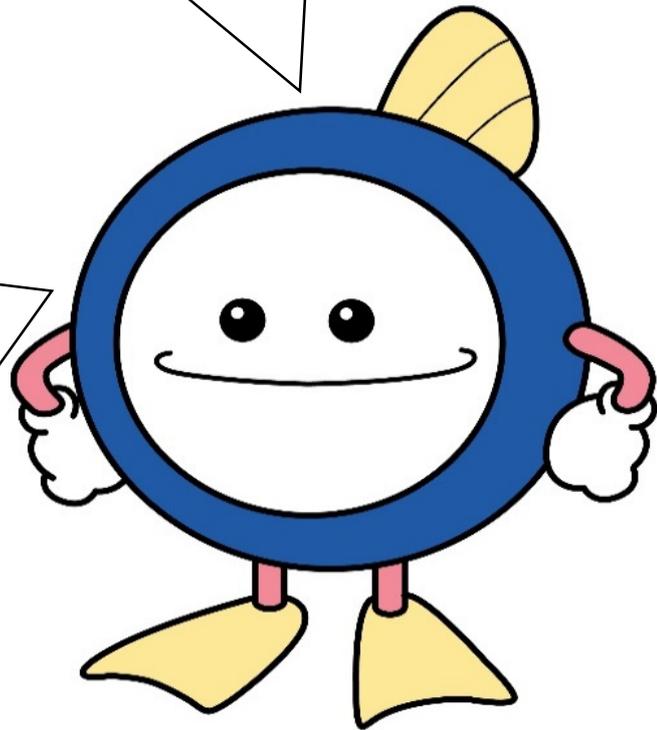
下水道の见えない真実を探ってみるっぺ！

(令和5年度 館山市下水道事業の決算編)

このシリーズでは館山市下水道事業の见えにくい真実について探っていくよ！
今回は令和5年度の館山市下水道事業の決算を例に「スイスイ」が内容や問題点を分かりやすく説明するよ！

公営企業は「六つの原則」に従って行っているよ！

- ・ 真実性の原則
- ・ 正規の簿記の原則
- ・ 資本取引と損益取引との区別の原則
- ・ 明瞭性の原則
- ・ 継続性の原則
- ・ 保守性の原則



下水道マスコットキャラクター
「スイスイ」

館山市都市計画課下水道室

目 次

1 決算ってなあに？	P1
2 家計簿にたとえると	P6
コラム① 地方公営企業会計ってなあに？	P11
3 私たちが支払った使用料は何に使われているの？	P13
4 汚水をきれいにするのにどれくらいかかるの？	P14
コラム② 下水道ってどこで使えるの？	P15
5 下水道事業の経営成績はどうなの？	P16
6 利益はどのように使われるの？	P18
8 借金はどのくらいあるの？	P19
9 下水道事業の財産はどのくらいあるの？	P20
10 下水道事業の財政状況はどうなの？	P23
11 他市町村と比べてどうなの？	P26
12 業務の実績はどうなの？	P28



みんなで一緒に
下水道の決算や下
水道事業の内容に
ついて見ていこ
う！

1.決算ってなあに？

○決算って？

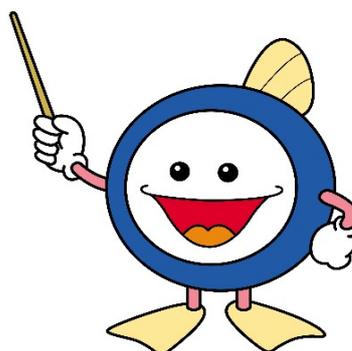


決算とは、1年間に入ってきたお金(収入)と出ていったお金(支出)を計算し、利益や損失をまとめた数字を「決算書」として確定させることです。

みんなで一緒に令和5年度の1年間に館山市の下水道事業に使われたお金の出入りを見てみよう！

○令和5年度の決算はどうだったの？

さっそく、令和5年度の館山市下水道事業を見てみよう。



収益的収支

【収入】

単位:円(税込)

区分	決算額	主なもの
営業収益	113,404,930	下水道使用料、他会計負担金 など
営業外収益	446,692,479	他会計補助金、長期前受金戻入 など
特別利益	19,300	過年度総益修正益 など
収入合計	560,116,709	

【支出】

単位:円(税込)

区分	決算額	主なもの
営業費用	463,903,226	人件費、委託料、減価償却費 など
営業外費用	52,693,205	支払利息 など
特別損失	0	過年度損益修正損 など
支出合計	516,596,431	
収支差引額	43,520,278	

資本的収支

【収入】

単位:円(税込)

区分	決算額	主なもの
企業債	287,900,000	建設改良事業に伴う借入金
国庫補助金	52,790,000	建設改良事業に伴う国庫補助金
その他	95,957,200	他会計補助金 など
収入合計	436,647,200	

【支出】

単位:円(税込)

区分	決算額	主なもの
建設改良費	130,222,833	人件費、工事請負費、委託料 など
償還金	446,465,681	企業債償還金
支出合計	576,688,514	
収支差引額	△ 140,041,314	



令和5年度の下水道事業の決算は、日々の経済活動に必要なお金(収益的収支)を見ると、約5億6千万円の収入対して約5億2千万円の支出があったよ。

一方、施設を建設したり、借金を返済したりするお金(資本的収支)は約4億4千万円の収入に対して、約5億8千万円の支出があったよ。不足している約1億4千万円については、留保しているお金を取り崩したりしてやりくりしたんだよ。

【用語説明】

収益的収支	維持管理に係るお金 詳細はP4をご覧ください
資本的収支	建設投資に係るお金 詳細はP4をご覧ください
他会計負担金	雨水からみんなの財産を守るために一般会計(税金)からもらうお金
他会計補助金	汚水事業を行うための整備費用等で、下水道使用料で賄いきれない部分を一般会計(税金)からもらうお金
長期前受金戻入	詳細はP5をご覧ください。
企業債	新しくポンプ場や下水管を建設するために借りるお金
国庫補助金	新しくポンプ場や下水管を建設するために国からもらうお金

公営企業会計と官公庁会計の違いはなあに？

下水道事業は地方公営企業法(解説はP11)の一部適用をしたことによって、市の他事業が採用する官公庁会計とは異なる「公営企業会計」を採用しているんだよ。



P1～2とP6、8の収入・支出それぞれの合計が異なるのはこれに関係しているのかな？

実はそうなんだ。違いについてまとめてみたから一緒に見ていこう。



	官公庁会計	公営企業会計
会計処理の考え方	現金主義 →収入・支出による現金の動きを記載 現金の動きでしか経営状況を把握できないので、資産や負債の増減を把握できず、経営状況が不透明。	発生主義 →収入・支出の現金の動きに関わらず経済活動の発生を記載 減価償却費や引当金等の現金を伴わないものも記載されるため、資産や負債の増減を把握可能になり経営状況を掌握することが可能。
	単式簿記 →変動の一面のみを記録 (「現金が減少した」のみ記載)	複式簿記 →変動と他の変動の双方を記録 (「現金が減少し、資産が増えた」を記載)
予算・決算管理	歳入・歳出(収入・支出)のみで管理 出納整理期間あり 現金主義のため税込で算定 予算を重視	収益的(3条)・資本的(4条)に分類したうえで収入・支出を管理 出納整理期間なし 発生主義のため予算は税込、決算は税抜で算定 予算・決算両方を重視

公営「企業」会計だから民間企業の会計方法とかなり近いんだね。そのおかげで後述の経営指標の様な詳しい情報を知ることができて、その情報を基に経営状況の良し悪しを把握したうえで必要な経営方針を立てることができるようになったんだね。



冒頭の質問については、P1～2は官公庁会計基準の算定(決算報告書)で、P6、8は公営企業会計基準の算定で行っているから収入・支出それぞれの合計額が異なるんだよ。

収益的収支・資本的収支ってなあに？

・現在のために使うお金＝収益的収支

みんなが使った汚水を下水処理施設で処理するのは、今、生活している人々のためにすることだよ。そう考えると、維持管理や1年間施設を使った事による資産価値の減少分である減価償却費、それから下水処理の対価である使用料収入などは「現在のために使うお金＝収益的収支」というイメージになるね。

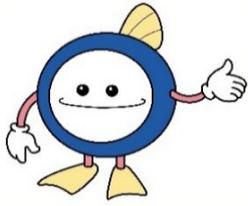
・将来のために使うお金＝資本的収支

ここで言う「将来」とは、1、2年後の「すぐ先」から、みんなの子供・孫の世代の「ずっと先」まで示しているんだ。この将来のために使うお金とは、例えば下水道管の敷設や処理場施設の建設のことだよ。一度整備された施設は、その後何十年と使用されることから、これらの整備費用やその財源となるために借りた企業債収入やその償還金、国からの補助金が「将来のために使うお金＝資本的収支」というイメージになるよね。



現在のために使うのか、将来のために使うのかを明らかにすることで、経営状況の把握に役立っているんだよ。

長期前受金戻ってなあ～に？



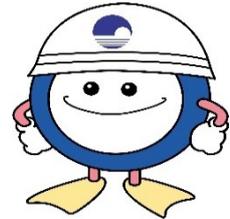
平成26年度の地方公営企業の会計基準の見直しに伴って、新たにできた収入の項目だよ。

固定資産の取得に伴う財源として受けた国庫補助金や一般会計からの負担金について、「長期前受金」として負債に計上したうえで、毎年度、減価償却見合い分を収益化する現金を伴わない収入なんだよ。

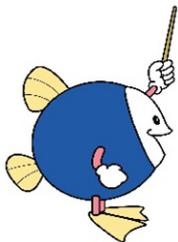
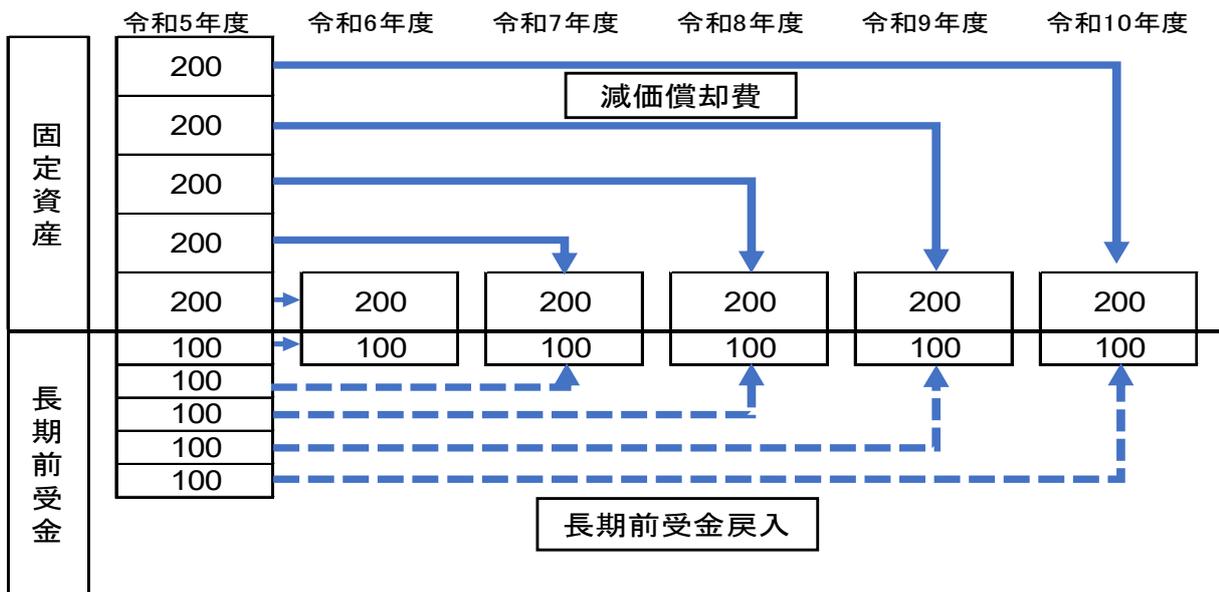


う～ん、言葉で聞いてもよくわからないなあ？

そうだね。言葉を聞いてもイメージしにくいね。じゃあ、具体的な例を挙げてイメージしてみよう。



(例)令和5年度に国庫補助金500万円、内部留保資金(貯金)500万円を財源に1000万円の施設の建設工事(耐用年数5年、残存価格0とする)を行った場合



この例でいうと、この施設は耐用年数が5年だから、毎年5分の1ずつ資産の価値が減少し、その価値の減少分である減価償却費が毎年200万円発生し費用計上することになるよ。

一方、平成26年度の会計基準の見直しによって、資産取得の財源である国庫補助金についても、減価償却費に対して、毎年5分の1の100万円ずつ収益化することになるんだ。この経理処理に伴って発生する収益を長期前受金戻入というんだよ。

2.家計簿にたとえると

○収入ってどんなものがあるの？

令和5年度の下水道事業のうち、まずは入ってきたお金(収入)を見てみましょう。

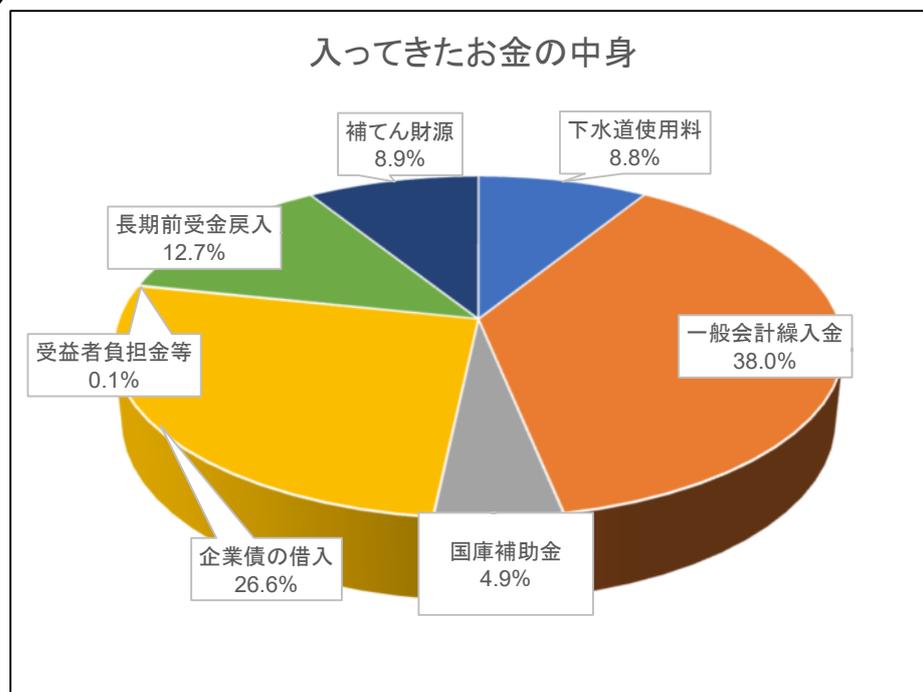
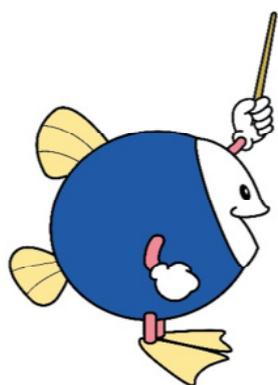
内 容	金 額 (円)	割合(%)
下水道使用料	95,505,150	8.8%
一般会計繰入金	411,770,000	38.0%
国庫補助金	52,790,000	4.9%
企業債の借入	287,900,000	26.6%
受益者負担金 等	1,178,134	0.1%
長期前受金戻入	137,991,720	12.7%
小 計	987,135,004	91.1%

補てん財源(P10にて解説)	96,591,301	8.9%
合 計	1,083,726,305	100.0%

下水道事業は、みんなが納めている下水道使用料を主な収入源として経営することになって
いるんだ。ところが入ってきたお金のうち、下水道使用料は約10分の1しかないね。

他の収入を見てみると、国からの補助金や館山市の一般会計からの繰入金(税金)などいろ
いろな種類の収入があるんだね。

次のページで、みんながイメージしやすいように、おうちの家計簿に例えてみよう！



前のページで見た1年間に入ってきたお金を1年間の家計簿に置き換えてみましょう。

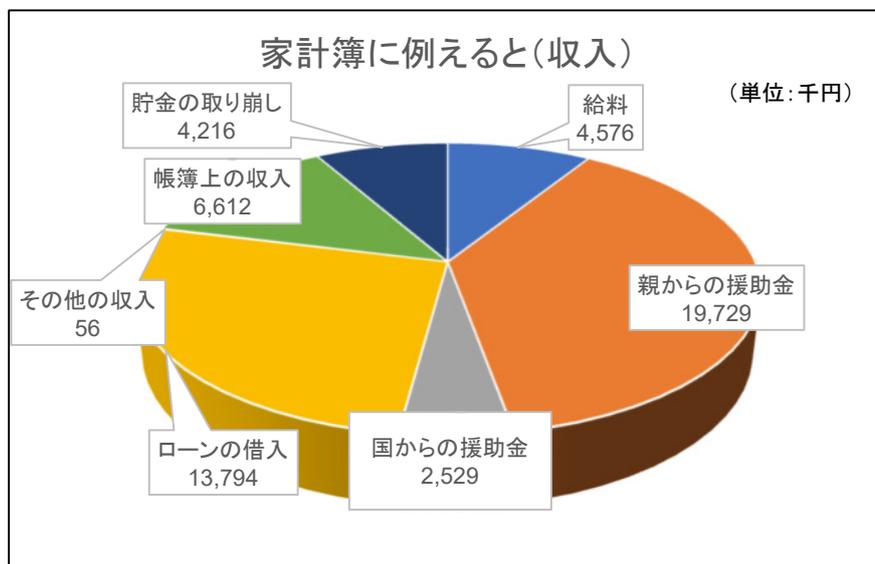
内 容	金 額 (円)	割合(%)
給料 (下水道使用料)	4,576,000	9.7%
親からの援助金 (一般会計繰入金)	19,729,402	41.7%
国からの援助金 (国庫補助金)	2,529,361	5.3%
ローンの借入 (企業債の借入)	13,794,339	29.2%
その他の収入 (受益者負担金 等)	56,449	0.1%
(帳簿上の収入:長期前受金戻入)	6,611,686	14.0%
合 計	47,297,238	100.0%

貯金の取り崩し	(補てん財源)	4,215,549	8.9%
---------	---------	-----------	------

※国税庁の令和4年度民間給与実態統計調査を参考(平均給与額4,576千円)をとし、その割合から合計を求めた後、残りを割合で按分して算定。

本当は出ていく分のお金は、自分の給料でやりくりするのが理想なんだけど、親からの援助やローンの借入、貯金の取り崩しに頼っているのが現状なんだね。

これは、下水道管を敷いたり、処理施設を作ったりするのに、たくさんのお金を出して投資していることや雨水の処理に係るお金は親からの援助や国からの援助で行っていることが理由なんだよ。



○お金はどんなことに使っているの？

入ってくるお金(収入)の内容を見たところで、次はどんなことにお金を使っているか(支出)を見てみましょう。

内 容	金 額 (円)	割合(%)
維持管理費	203,994,901	18.8%
建設改良費	130,222,833	12.0%
減価償却費(P10にて解説)	250,392,170	23.1%
企業債の償還・支払利息	499,116,401	46.1%
合 計	1,083,726,305	100.0%

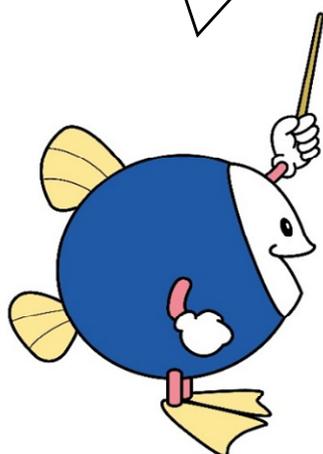


あれ？P6の実収入額の小計が「987,135,004」で補てん財源の「96,591,301」が無いと、実支出額の合計が「1,083,726,305」だから支出の方が多くて赤字になるね。
資金が不足したりしないのかな？

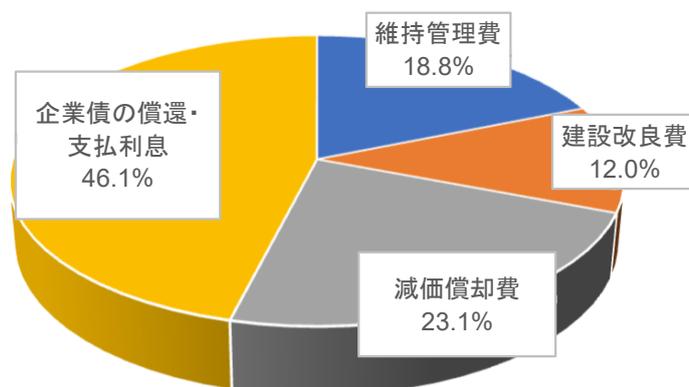
確かに会計上では厳密にいうと赤字ってことになるけど、収入額の長期前受金と支出額の減価償却費が非現金支出(現金の移動を伴わず、会計の数値上のみの収支)のため、実際の現金はギリギリではあるものの黒字の状態なんだ。詳しくはP10の補てん財源で解説しているよ。

その他にも「建設改良費」「減価償却費等」「企業債の償還・支払利息」で使ったお金が81%を占めていることがわかるね。これらのお金は、下水道管やポンプ場・処理場施設などのハード面の建設費用にかかるお金なんだ。たくさんのお金が使われているね。

でも、なんだか難しそう言葉ばかりでイメージしづらいね。それぞれの支出がどういうものなのか、また、おうちの家計簿に例えてみよう。



使ったお金の中身

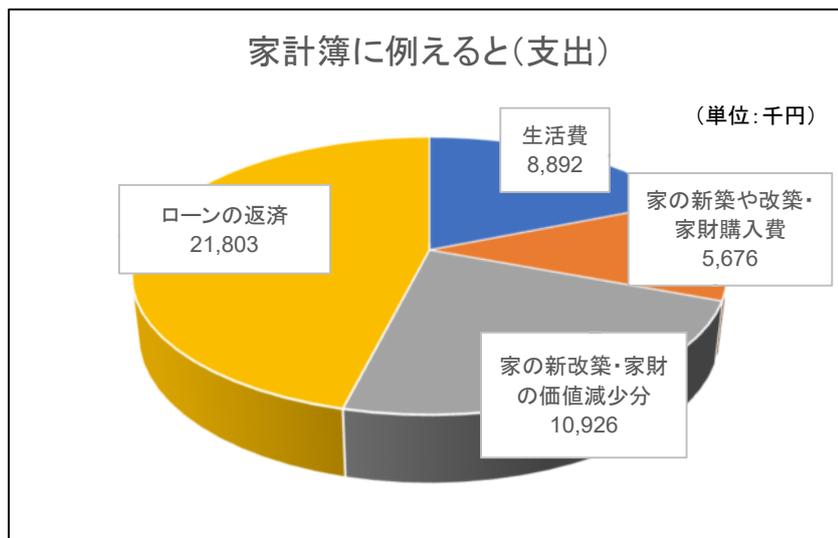


前のページで見た1年間で出ていったお金を1年間の家計簿に置き換えてみましょう。

内 容	金 額 (円)	割合(%)
生活費 (維持管理費)	8,891,881	18.8%
家の新築や改築・家財購入費 (建設改良費)	5,675,669	12.0%
家の新改築・家財の価値減少分 (減価償却費等)	10,925,662	23.1%
ローンの返済 (企業債の償還・支払利息等)	21,804,027	46.1%
合 計	47,297,238	100.0%

※P7収入の家計簿合計額47,297,238円を割合で按分することで算定。

「ローンの返済」が半分近くを占めているね。これは今までに下水道管を敷いたり、施設を建てたりした時に借りたお金を毎年返済しているものなんだよ。こういった施設を建てるのにはたくさんのお金が必要になるんだけど、一度、建ててしまえば数十年に渡って使うことができるよね。それなのに建てたお金を当時の人たちだけで負担するのは不公平だよ。だから何年もかけて返済することで、不公平にならないようにしているんだよ。



減価償却費ってなあ～に？



減価償却費とは、時間がたつことによる建物や設備などの資産の価値が減少した分の費用を計上するものだよ。

みんなが分かりやすいイメージで言うと、100万円で買った新車を5年後に売る時には、買った時の値段では売れなくて、経年して価値が落ちた分を引いた価格になるよね。

こういった資産の現在の価値を正確に把握するためにも、価値が減少した分を費用として計上する必要があるんだ。この手続きを「減価償却」と呼び、その手続きによって計上される費用を「減価償却費」と言うんだよ。



例えば、100万円で購入した車が1年後に90万円の価値になった場合、その1年間の減価償却費は価値が減少した10万円になるってことだね。

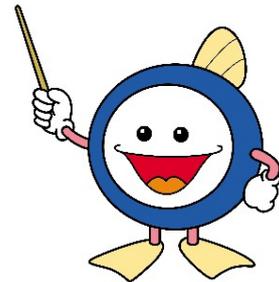
補てん財源ってなあ～に？

補てん財源とは、資本的収支予算において、収入額が支出額に対して不足することになった場合に、その不足分を補う財源のことだよ。

公営企業の予算制度は、収益的収支と資本的収支の2本立てなのはP3で説明したよね。そのうち、資本的収支予算は、建設改良費や企業債の償還が主な支出であり、支出が収入を上回ることが多くあるんだ。

しかし、実際に予算を執行する時に資金が不足しないように、予算を作成する段階にその不足額について、資金的に賄うことができると説明する必要があるんだ。

この不足額の財源には、収益的収支予算のうち、現金の支出を伴っていない減価償却費の支出によって内部に残る資金(内部留保資金)や残りを一般会計からの基準外繰入金によって発生した純利益を館山市下水道事業会計では充てているよ。



減価償却費や固定除却費などの支出は、資産価値の減少分等を費用として計上しているもので、実際にお金は支出していないから、建設改良費や企業債の償還の財源として使うことができるってことだね。

コラム①地方公営企業ってなあに？

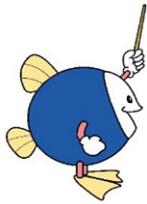


下水道事業は、市役所が行っている会計(官庁会計)と違って、地方公営企業法を適用した地方公営企業になっているよ。

- ・この地方公営企業って何だろう？
- ・市役所が行っている会計との違いは何だろう？
- ・どんなメリットがあるんだろう？

「地方公営企業会計のなあに？」についてスイスイが説明するよ。

Q1 地方公営企業ってなあに？

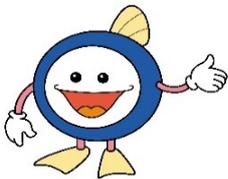


地方公共団体は、消防、教育、福祉等の一般的な行政活動だけでなく、水の供給、公共交通機関の整備、医療の提供等の住民活動や地域の発展に不可欠なサービスを提供する様々な事業活動を行っているんだよ。

こうした一般的な行政活動以外の事業を行うために、地方公共団体が経営する企業活動を総称して「地方公営企業」と言うよ。

Q2 地方公営企業の特徴ってなあに？

地方公営企業法第3条で、次のとおり謳われているよ。



第3条

地方公営企業は、常に**経済性**を発揮するとともに、その本来の目的である**公共の福祉**を増進するように運営されなければならない。

ここでは「合理的・能率的に経営を行う。」という意味の「**経済性**」及び、「住民の福祉の増進を目的として経営を行う。」という意味の「**公共の福祉**」という2つのキーワードが地方公営企業の特徴なんだよ。

Q3 「経済性」と「公共の福祉」の関係性はどんなの？



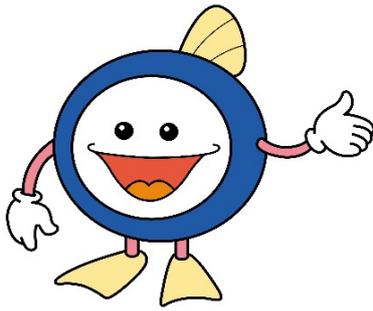
企業の**経済性**と**公共の福祉**は、矛盾する関係ではなくて、むしろ、企業の**経済性**を発揮し、健全な経営体質を維持することが、より良い市民サービスの提供につながるんだよ。

企業の**経済性**
(健全な経営体質の維持)



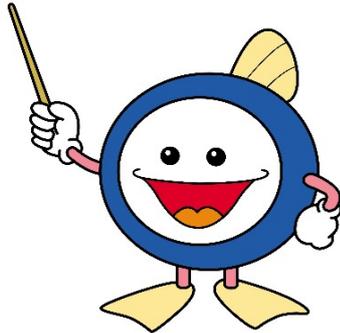
公共の福祉
(より良い市民サービスの提供)

Q4 企業会計のメリットってなあに？



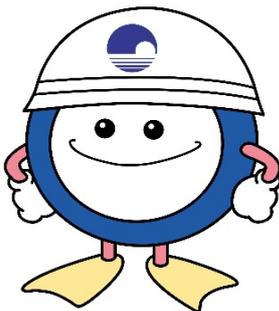
① 経営状況の明確化

発生主義、複式簿記で会計処理を行うことにより、1年間の現金の出入りだけでなく、「資産」や「負債」などの現金の出入りが伴わないものも含めて管理するよ。そのため、従来の官公庁会計で見えづらかった「1年間における経営成績が黒字なのか赤字なのか」などの経営状況を把握し分析することができるようになるんだよ。



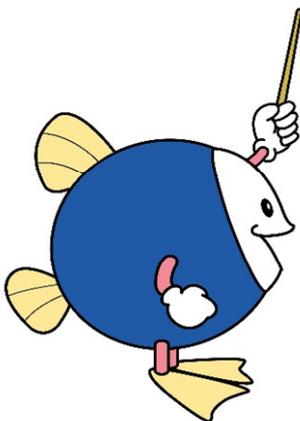
② 使用料の適正化

公営企業では、使用料を決めるのに官公庁会計にはない減価償却費などを含めて算定しているんだ。これによって、期間年度ごとに発生する費用とその対価である使用料収益のバランスが適正であることを客観的に分かりやすく市民に説明することができるようになるんだよ。



③ 裁量による経営の効率化とサービスの向上

企業会計は、業務量が増加することによって、収益が増加する場合は、予算の弾力的な運用が認められているんだ。また資産の取得や処分等についても、議会の議決を要しないんだよ。これは経営の自由度が増すことによって、市民のニーズへの迅速な対応が可能となり、経営の効率化とサービスが向上されるからなんだよ。



④ 適切な財産把握

減価償却の考え方を導入していることで、資産の老朽化の状態を正確に把握することができるんだ。更に更新費用の正確な試算もできるようになるんだよ。

⑤ 職員の経営意識の向上

減価償却費を含めたコストとそれに対する収益、資産と負債の最適化を意識することで、最小の経費で最大の効果の発揮を図る、経営意識を持った人材の育成が期待されるんだよ。

3. 私たちが支払った使用料は何に使われているの？

汚水1m³あたりの下水道使用料の金額

$$\begin{aligned} \text{使用料単価} &= \frac{\text{使用料収入 (令和5年度年間使用料収入)}}{\text{有収水量(m}^3\text{) (令和5年度の収入の基礎となった処理水量)}} \\ &= \frac{95,505,150\text{円}}{572,303\text{m}^3} \\ &= \boxed{166.88\text{円}} \quad \leftarrow \text{【1m}^3\text{あたり】} \end{aligned}$$

館山市は、みんなが支払ってくれた下水道使用料を汚水処理施設（鏡ヶ浦クリーンセンター）の維持管理費に使っています。
次のページで説明するよ！



4.汚水をきれいにするのにどれくらいかかるの？

汚水1㎡あたりの処理費用

$$\begin{aligned} \text{汚水処理原価} &= \frac{\text{汚水処理費 (令和5年度に汚水を処理する際にかかった費用)}}{\text{有収水量(㎡) (令和5年度の収入の基礎となった処理水量)}} \\ &= \frac{224,925,000\text{円}}{572,303\text{㎡}} \\ &= \boxed{393.01\text{円}} \end{aligned}$$

← 【汚水1㎡を処理する費用】

資本費 2億9,890万円		維持管理費 2億2,169万円	
減価償却費 253,762千円 (48.7%)	企業債利息 45,134千円 (8.7%)	維持管理費(鏡ヶ浦クリーンセンター) 183,166千円 (35.2%)	職員給与費 38,524千円 (7.4%)
合計5億2,059万円(1年平均)の経費のうち、以下色付部分が使用料対象経費は 2億5,975万円(1年平均)			
長期前受金 142,272千円 (27.3%)	一般会計が負担金すべき金額) 110,834千円 (21.3%)	基準外 42,185千円 (8%)	使用料収入 93,229千円 (17.9%)
	基準内	基準外 114,686千円 (22.0%)	基準内

維持管理費

下水道管や処理場施設などの運転管理や保守点検などに係る費用のことです。

一般会計繰入金(基準外)

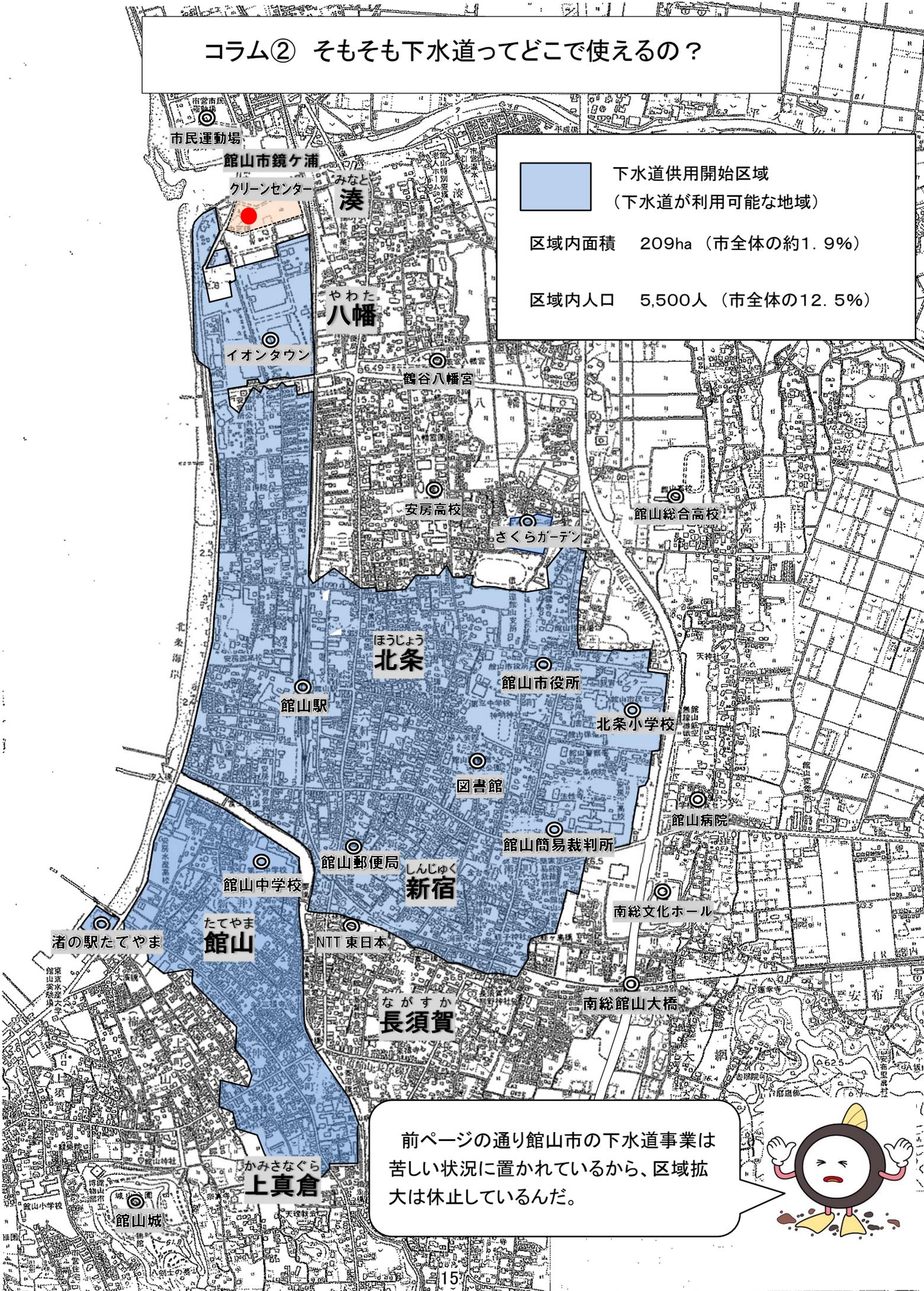
使用料で賄うべき経費を一般会計(税金)で補てんしています。

汚水1㎡をきれいにするのに393.01円かかっているのに、みんなからもらっている下水道使用料は166.88円だから、処理する費用を賄えていないね。不足している226.13円分は一般会計からの繰入金(市民からの税金等)などから支えてもらっているんだよ。

ここで問題なのが下水道事業を補っている繰入金の内、市民からの税金は下水道区域内外に関わらず頂いているよね。つまり、下水道に接続できる環境になくて、恩恵を受けることの無い下水道区域外の方から頂いた税金も下水道区域内の方に投入していることになるんだ。



コラム② そもそも下水道ってどこで使えるの？



前ページの通り館山市の下水道事業は
苦しい状況に置かれているから、区域拡
大は休止しているんだ。



5. 下水道事業の経営成績はどんなの？

～黒字なの？赤字なの？～

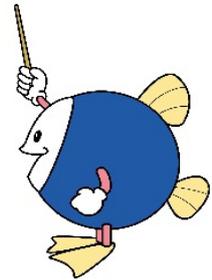
損益計算書ってなあ～に？

損益計算書とは、企業が1年間にどれだけ利益を上げたか明らかにするためのものだよ。ただ単に利益だけが示されているわけではなく、利益が出るまでの途中経過が示されているんだ。

下水道使用料のような営業活動による収入だけでなく、現金預金を銀行に預けていれば利息が、土地を売却すればその売却益が収入として入ってくるんだ。

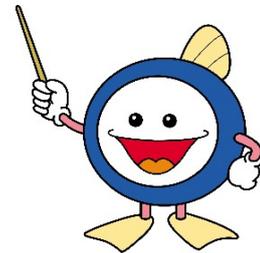
一方、収入を上げるために、人件費や材料費が費用として掛かるし、施設を建設すればその後、減価償却費が費用として増加してくるんだ。

収入から支出を差し引いたものがプラスなら(つまり利益)、マイナスなら赤字(つまり損失)ということになるんだ。



損益計算書はいわゆる企業の1年間の成績表ということだね。

では、次のページで実際に館山市の損益計算書を見てみよう。



【令和5年度館山市下水道事業損益計算書（税抜）】

（単位：円）

1.営業収益 (A)	103,872,150
下水道使用料	95,505,150
一般会計負担金	8,292,000
その他営業収益	75,000
2.営業費用 (B)	448,637,417
処理場・ポンプ施設費	141,532,433
普及促進費	485,000
業務費	6,901,803
総係費	49,326,011
減価償却費	250,392,170
営業利益 (C) ((A)-(B))	△ 344,765,267
3.営業外収益 (D)	446,596,354
一般会計負担金	136,797,000
一般会計補助金	171,229,000
長期前受金戻入	137,991,720
雑収益	578,634
4.営業外費用 (E)	58,400,374
支払利息及び企業債取扱諸費	52,650,720
雑支出	5,749,654
経常利益 (F) ((C)+(D)-(E))	43,430,713
5.特別利益(G)	19,300
過年度損益修正益	19,300
6.特別損失(H)	0
特別損失	0
純利益 (I) ((F)+(G)-(H))	43,450,013



令和5年度の下水道事業は、43,450千円の黒字だったんだね。
でも、この43,450千円の黒字はどう使われてるのかなあ？

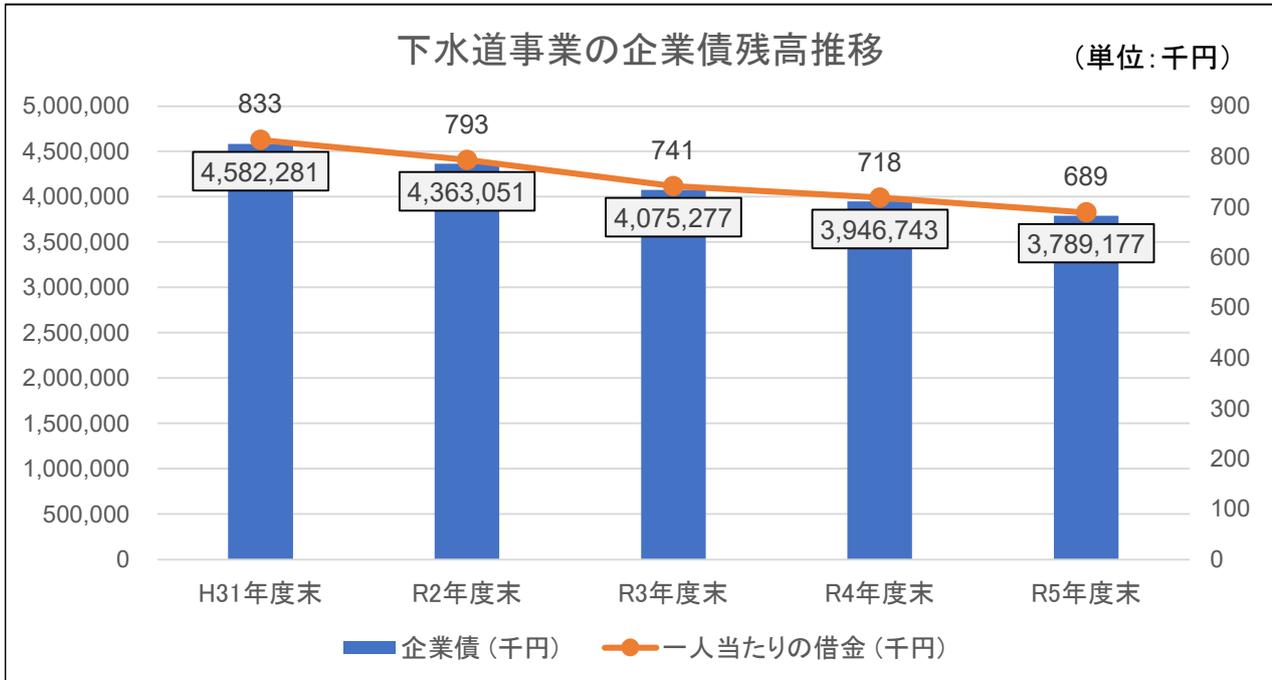
この43,450千円の黒字がどのように使われるのか、見てみよう。



8.借金はどれくらいあるの？

P8で、「企業債の償還＝ローンの返済」と紹介しましたが、これは令和5年度に返済した金額のことです。

ここでは、1年間に返済する金額ではなく、「企業債の残高＝ローン残高」、つまり借金がいくら残っているかを見てみましょう。



	H31年度末	R2年度末	R3年度末	R4年度末	R5年度末
企業債 (千円)	4,582,281	4,363,051	4,075,277	3,946,743	3,789,177
一人当たりの借金 (千円)	833	793	741	718	689



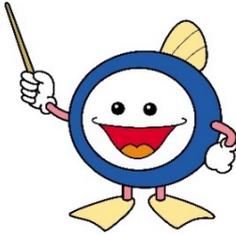
借金の残高は年々減少してるね。5年前の平成31年度末に比べて約7億9千万円も減少しているのがわかるね。
館山市では、借入の金額を返済の金額以内に抑えることによって、企業債(借金)の残高を毎年減らすようにしているんだよ。

市民一人当たりの借金は、令和5年度末の下水道処理区内人口が5,500人で企業債(借金)の残高が約3,789,177千円だから、一人当たりの借金は約689千円になるね。
5年前の平成31年度末の一人当たりの借金が約833千円だから、5年前より約144千円減ってるね。

9. 下水道事業の財産はどれくらいあるの？

企業の一定の時点における当該企業が保有する財産を表すものとして「貸借対照表」があります。これを令和5年度館山市下水道事業決算に当てはめると、「令和6年3月31日時点の館山市の下水道事業における財政状況を表すもの」になります。

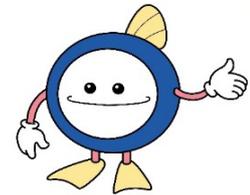
貸借対照表ってなあ～に？



貸借対照表とは、企業のプラスの財産(資産)とマイナスの財産(負債)のバランスをまとめた表で、決算の際に作成される報告書のひとつだよ。

企業の全ての財産を一度に見ることができて、事業を行うために「何にお金を投資したのか(資産)」、また「どうやってお金を集めたか(負債)、(資本)」をまとめた表だよ。

貸借対照表は、「資産」「負債」「資本」の3つで内容を示しているよ。「資産-負債=資本」という関係性から「資産=負債+資本」という表が作られるよ。



【貸借対照表(税抜)】

(単位:円)

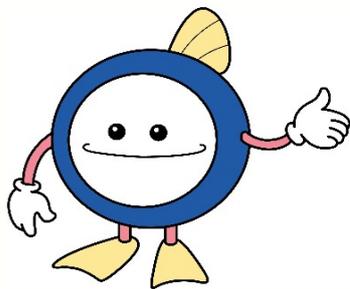
資産の部			
名称	令和5年度末残高	令和4年度末残高	増減
有形固定資産	13,265,058,798	13,395,444,074	△ 130,385,276
固定資産合計(①)	13,265,058,798	13,395,444,074	△ 130,385,276
現金・預金	186,528,508	95,525,058	91,003,450
未収金	19,717,015	26,468,697	△ 6,751,682
未収金貸倒引当金	△ 280,000	△ 250,000	△ 30,000
前払費用	△ 73,779	△ 50,092	△ 23,687
前払金	454	538	△ 84
流動資産合計(②)	205,892,198	121,694,201	84,197,997
資産合計(①+②)	13,470,950,996	13,517,138,275	△ 46,187,279

負債の部			
名称	令和5年度末残高	令和4年度末残高	増減
企業債	3,356,850,137	3,500,276,592	△ 143,426,455
引当金	0	0	0
固定負債合計(③)	3,356,850,137	3,500,276,592	△ 143,426,455
企業債	432,326,774	446,466,000	△ 14,139,226
未払金	122,124,237	55,022,464	67,101,773
引当金	4,198,000	3,945,000	253,000
その他流動負債	271,384	307,574	△ 36,190
流動負債合計(④)	558,920,395	505,741,038	53,179,357
長期前受金	4,513,980,649	4,525,834,391	△ 11,853,742
繰延収益合計(⑤)	4,513,980,649	4,525,834,391	△ 11,853,742
負債合計(③+④+⑤)	8,429,751,181	8,531,852,021	△ 102,100,840

資本の部			
名称	令和5年度末残高	令和4年度末残高	増減
資本金	△ 291,410,007	△ 301,737,937	10,327,930
資本金合計(⑥)	△ 291,410,007	△ 301,737,937	10,327,930
資本剰余金	5,197,856,695	5,185,393,147	12,463,548
利益剰余金	134,753,127	101,631,044	33,122,083
剰余金合計(⑦)	5,332,609,822	5,287,024,191	45,585,631
資本合計(⑥+⑦)	5,041,199,815	4,985,286,254	55,913,561
負債資本合計(③+④+⑤+⑥+⑦)	13,470,950,996	13,517,138,275	68,377,109

【貸借対照表の用語説明】

資 産	固定資産	継続的に使用する、あるいは長期的に投資するなどの目的から長期保有する資産のことです。
	有形固定資産	固定資産のうち物理的な形態を持ち、1年を超える長期にわたり利用される事業用の資産のことです。土地や建物、機械設備などがあり、土地以外の有形固定資産は減価償却の対象となります。
	流動資産	現金及び営業活動により短期間(通常、一年以内)に現金化できる預金や未収金などの資産のことです。
	未収金	その経営活動の過程において、外部に対して用役や財産等を提供したこと等によって生じる金銭の債権(お金を払ってもらう権利)。主に下水道使用料等がこれにあたります。
	貸倒引当金	債権の徴収が見込めなく時効が到達したときに使用します。
	前払費用	費用等の先払いしたお金のことです。
	前払金	物品の購入、工事の請負等に際して前払いしたお金のことです。
負 債	固定負債 流動負債	負債とは、会計上における「債務」を負った状態と言います。この負債のうち、1年以内に支払い義務が発生しないものを固定負債、1年以内に支払い義務が発生するものを流動負債と言います。
	企業債	借金のこと。1年以内に返済予定の額を流動負債に、それ以降に返済予定のものを固定負債に区分されます。
	引当金	翌年以降において費用又は損失の可能性が高い場合に、費用又は損失額を見積もって計上する科目のことです。
	未払金	特定の契約により債務が発生しているにも関わらず未だ支払いが終わっていないもののことです。



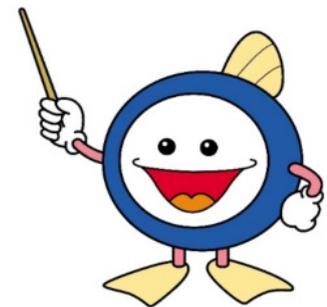
「資本金」という項目がマイナス(△)になっているけど、「資本」を項目別に分けた場合に会計上で生じたものだから今後解消する見込みなんだ。
また、「資本合計」が5,041,199千円となっており、合計がプラスになっているから、経営についての心配はないんだよ。

負債	長期前受金	償却資産の取得に伴う財源である国庫補助金や工事負担金等を負債として計上したものです。減価償却費見合い分を、順次収益化します。
資本金	自己資本金	企業開始時に下水道会計から引き継いだ資本金である「固有資本金」と企業開始後に自らの経営努力によって生み出した利益剰余金を議会の議決をもって資本に組入れた「組入資本金」があり、あわせて自己資本金と言います。
	資本剰余金	資本取引(4条の取引)によって企業内に留保された剰余金のことです。 (例)土地等の非償却資産の取得に充てた補助金や寄付金等。
	利益剰余金	企業の営業活動(3条の取引)によって獲得した利益のことです。



貸借対照表は、「何にお金を投資したか(資産)」、「どうやってお金を集めたか(負債)(資本)」を表しているんだよ。
 令和5年度の下水道事業は、前年度に比べて財産(資産)が46,187千円減っている一方で、負債は102,100千円減少しているね。
 特に負債の企業債の減少が大きいことから、現金等の資産を借金の債務に充てることによって減少させたってことだよ。
 でも、財産が減少しているけど、財政状況は大丈夫なのかな？

なかなか貸借対照表の数字をみても、わかりづらいね。
 次のページでは、指標を使って財政状況を見てみよう。



10. 下水道事業の財政状態はどうか？

企業の財政状態(経営状態)を分析するため、いくつかの指標を使って、館山市の下水道事業の財政状態を見てみましょう。

① 自己資本構成比率・・・経営の健全性、安全性の指標

財政状態の長期的な安全性の見方として、その事業の資本構成がどのようになっているかが重要になってきます。

自己資本構成比率はこれについて表す指標で、総資本(負債と資本)に占める資本金等の割合が高ければ高いほど企業の財政状態は良好と判断できます。

$$\begin{aligned} \text{自己資本構成比率} &= \frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益}}{\text{負債資本合計}} \times 100 \\ &= \frac{\Delta 291,410,007 + 5,332,609,822 + 4,513,980,649}{13,470,950,996} \times 100 = 70.9 \end{aligned}$$

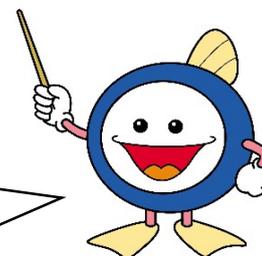
館山市 (令和5年度決算値)	比較団体平均 (令和4年度決算値)	全国平均 (令和4年度決算値)
70.9%	70.5%	63.7%

※比較団体平均:千葉県内7団体(P26にて解説)



健全性は比較団体と同程度で、全国平均に比べて良好みたいだね。

下水道事業は施設の建設投資の財源の多くを企業債によって調達していることから、自己資本構成比率は低くなる傾向にあるんだ。より一層の事業経営の安定化を図るためには、経営努力による資本金の造成が必要だね。



② 流動比率…負債に対する支払能力の指標

財政状態の短期的な安全性の見方として、短期債務の支払い能力を見ることが重要です。
 流動比率は1年以内に支払い義務が生じる負債(流動負債)に対して、1年以内に現金化することが可能な資産(流動資産)をどれだけ保有しているかを示す指標で、流動試算が100%以上であれば、単金債務返済能力は十分にあるものと判断できます。

$$\begin{aligned} \text{流動比率} &= \frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100 \\ &= \frac{205,892,198}{558,920,395} \times 100 = 36.80\% \end{aligned}$$

館山市 (令和5年度決算値)	比較団体平均 (令和4年度決算値)	全国平均 (令和4年度決算値)
36.8%	56.4%	73.4%

※比較団体平均:千葉県内7団体(P26にて解説)

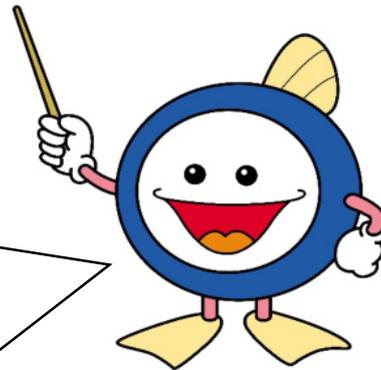


支払能力については、比較団体や全国の平均と比べるとかなり劣っているね。館山市は大丈夫なのかな？
 それから他の団体も適正な基準とされている100%を下回っているね。なんでだろう？

そうだね。館山市の現状は流動比率の数値から見るとかなり厳しいことがうかがえるね。
 これは収入の多くを使い道が決まっている他会計繰入金りが占めているため、分子である流動資産が低くなってしまっているのが原因のようだね。

100%を下回っていることについては、平成26年度の地方公営企業法の改正に伴って、翌年度に支払う企業債の元金が流動負債に計上されることになった一方、その支払の財源は貸借対照表に記載されていないんだ。

そのため、全国的にも未だ整備途中である下水道事業は、その財源の多くを企業債によって調達していることから100%を下回ることになるんだ。



③ 固定比率・・・固定資産にかかる費用の支払能力と安全性の指標

建物や機械は減価償却で毎年費用化しなければなりません。また、維持するための修理費用や買い替えの費用も掛かります。そのため、固定資産にかかる費用を長期的に支払える能力があるか見極める必要があります。

固定比率は、資本に対する固定資産の割合を言い、固定資産がどの程度、自己資本で賄われているかを見る指標です。固定比率が低ければ低いほど安全性が高く、100%以下に抑えると良好であると判断できます。

$$\begin{aligned} \text{固定比率} &= \frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益}} \times 100 \\ &= \frac{13,265,058,798}{\Delta 291,410,007 + 5,197,856,695 + 4,513,980,649} \times 100 = 140.80\% \end{aligned}$$

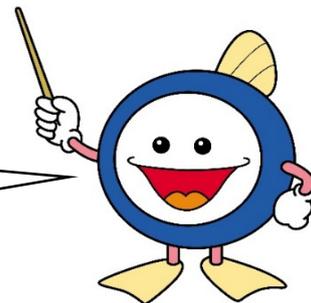
館山市 (令和5年度決算値)	比較団体平均 (令和4年度決算値)
140.8%	124.2%

※比較団体平均:千葉県内7団体(P26にて解説)



比較団体平均よりも悪いみたいだね。
それに比較団体平均も基準とされている100%は大きく
超えているね。なんでだろう？

公営企業は莫大な設備投資の資金の多くを企業債に依
存していることから必然的に固定比率は高くなってしまっ
た。



11.他市町村と比べてどうなの？

先ほど、財政状態を分析するため、いくつかの指標を使って経営の健全性や安全性などを見てみました。ここではさらに多くの指標を使いながら、館山市が独自に選定した比較団体と比べてみましょう。

なお、比較団体平均とは、大網白里市・茂原市・旭市・八街市・銚子市・木更津市及び君津富津広域下水道組合の平均値としています。

視点	項目	館山市		比較団体平均	説明
		R5年度	R4年度	R3年度	
収益性	経常収支比率(%)	108.6%	106.5%	108.9%	経常支出が経常収益でどの程度賄われているかを示す指標で高いほど良い。
生産性	職員1人当たり営業収益(千円/人)	14,839	15,844	52,494	損益勘定職員(維持管理部門の職員)1人当たりの営業収益を示す指標で高いほど良い。
	職員1人当たり使用料収益(千円/人)	13,643	13,206	44,871	損益勘定職員1人当たりの使用料収益を示す指標で高いほど良い。
	職員1人当たり有収水量(千円/人)	81,757	80,494	283,935	損益勘定職員1人当たりの有収水量を示す指標で高いほど良い。
安全性	流動比率(%)	36.8%	24.1%	56.4%	短期債務に対する支払能力の指標で100%以上あるのが望ましい。
	自己資本構成比率(%)	70.9%	70.4%	70.5%	長期的な安全性を見る指標で高いほど、財政状態は良い。
	固定比率(%)	140.8%	140.8%	124.2%	固定資産にかかる費用の支払能力と安全性の指標で100%以下が望ましい。
効率性	水洗化率(%)	87.4%	86.1%	88.2%	下水道を使うことができる人口のうち、実際に使用している人口の割合を示す指標で高いほど良い。
	経費回収率(%)	42.5%	54.9%	92.2%	汚水処理費用が下水道使用料でどの程度賄われているかを示す指標で、100%以上あることが望ましい。

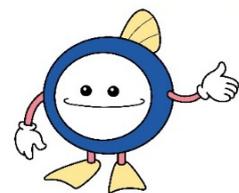
比較団体はどうやって選んだの？

館山市では同じ千葉県内である大網白里市・茂原市・旭市・八街市・銚子市・木更津市及び君津富津広域下水道組合を比較団体として選定し、数値の比較を行っているよ。

選定は経営状況や地理的条件を勘案して決められたんだ。

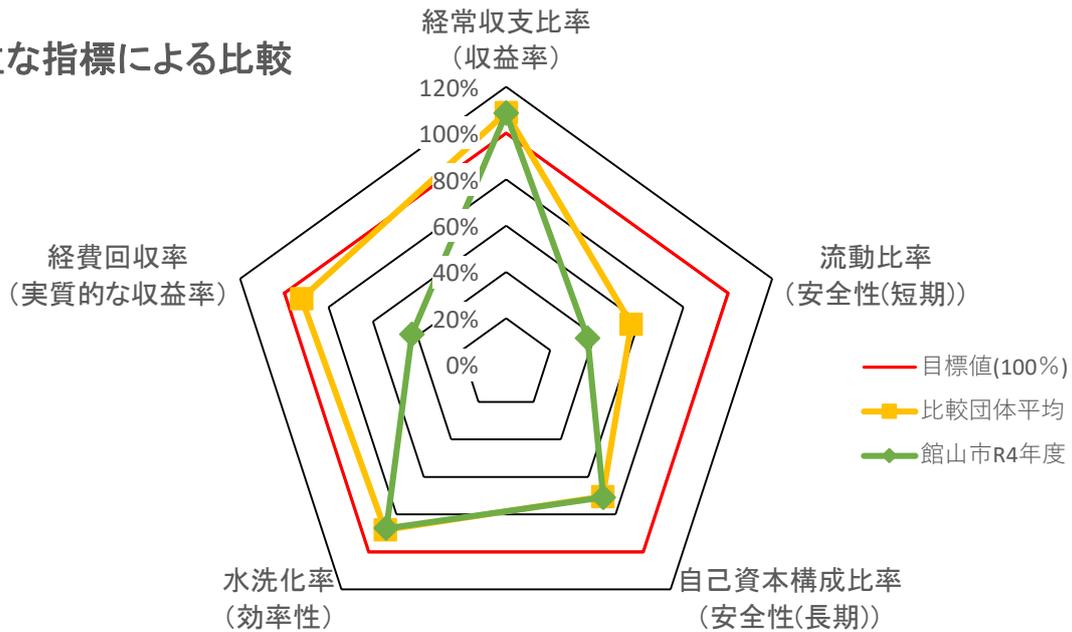
経営状況・・・上記のような経営指標等を参考に選定

地理的条件・・・近隣市町村は公共下水道事業を行っていないことから類似の条件(周辺の地形、事業年数等)により選定



※選定は館山市独自のものであり、当広報について他市町村に問い合わせることはご遠慮ください。

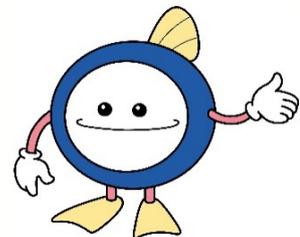
主な指標による比較



比較団体平均と比べると「経常収支比率」、「自己資本比率」、「水洗化率」は同等かそれ以上の数値だから「収益率」や「長期的な安全性」、「効率性」については大きな問題は抱えてないように見えるね。だけど、一般会計からの繰入金によって支えられているから見かけの数値は問題ないように見えているだけなんだ。

だから、一般会計からの繰入金の影響を受けない「流動比率」、「経費回収率」は倍以上の差をつけられていて財政状況に問題があることが分かるね。

また、経常収支比率以外はいずれも目標値である100%に遠いことが分かるね。厳しい経営状態だけでも少しでも改善ができるように経営努力を更に進める必要があるね。



11.業務の実績はどうか？

最後になりますが、令和5年度の館山市下水道事業の実務を見てみましょう。

①普及状況

項 目		令和6年3月末	令和5年3月末	増 減
全 市 人 口 A	人	43,839	44,414	△ 575
処 理 区 域 面 積	ha	209	209	0
処 理 区 域 内 人 口 B	人	5,500	5,500	0
水 洗 化 人 口 C	人	4,809	4,738	71
人 口 普 及 率 B/A	%	12.5	12.4	0.1
水 洗 化 率 C/A	%	87.4	86.1	1.3
有 収 水 量	m ³	572,303	563,459	8,844

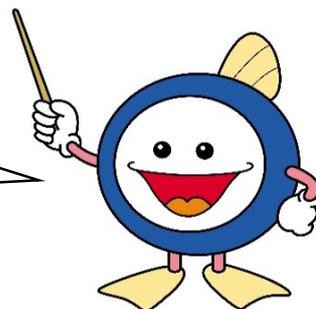
②管渠延長

項 目		令和6年3月末	令和5年3月末	増 減
下 水 管 渠 布 設 延 長	m	45,043.00	45,022.16	20.84
汚 水 管	m	44,491.00	44,470.16	20.84
雨 水 管	m	552.00	552.00	0.00

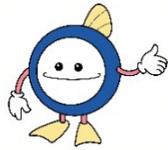
③処理水量

項 目		令和6年3月末	令和5年3月末	増 減
総 処 理 水 量	m ³ /年	601,107	600,494	613

館山市の1年間で汚水を処理する水量(総処理水量)は、小学校のプールに換算すると、約1,420杯分の水量になるんだよ。



人口普及率・水洗化率ってなあに？



①普及状況には、「人口普及率」、「水洗化率」と2つの指標が書かれているね。
それぞれどんな指標なのか説明するよ。

人口普及率・・・館山市に住んでいる人口(＝全市内人口)の内、館山市内で下水道が使用可能な地域(処理区域)に住んでいる人口(＝処理区域内人口)の割合を示す指標です。

人口普及率＝処理区域内人口÷全市人口

水洗化率・・・館山市内で下水道を使用できる地域に住んでいる人口(＝処理区域内人口)の内「処理区域内で実際に水洗便所を設置して汚水进行处理している人口」(＝水洗化人口)の割合を示す指標です。

水洗化率＝水洗化人口÷処理区域内人口

